

人権啓発センター だより

平成26年8月

No.8

(公財) 高知県人権啓発センター



ペットの命を大切に

犬と2匹の猫を飼っている。

犬は朝夕の運動が欠かせず、トイレ・グッズを手提げて、嬉しそうに飛び跳ねる愛犬と散歩するのは日々の楽しみである。

猫はいずれも赤ん坊の捨て猫を見かねて拾ってきた。マイペースで、飼い主に媚びないが、家の中を走り回る姿は愛おしい。

最近、昔よりも野良猫・犬を見ることが少ないように思う。しかし、捨て猫や、飼い主が何らかの事情で世話できない等の理由で自治体に引き取られた全国の猫の数は、平成24年度で13万8千匹、うち殺処分された猫は12万3千匹、犬と併せると何と16万2千匹にのぼるという。殺処分数はここ10年で1/3ほどに減ってきており、徐々にペット飼育のマナーは向上してきたのだろうが、それにしてもこの数字には唖然とする。

家族の一員、生活の潤いである愛犬、愛猫のその命を、全ての飼い主が慈しんで欲しいと心から思う。

(理事長 吉岡)



人権あれこれ

～ネパールの子どもたち～

今春ネパールを旅行する機会があった。インドと中国チベット自治区にはさまれ、8000m級のヒマラヤ山脈が東西に連なるネパール。山あいを歩いていると、とにかく子どもたちと若者が多いのに驚く。子どもたちは満面の笑顔で近づき、「ナマステ。スイーツ？」と手を出し、お菓子を求めてくる。額に掛けた帯で、大きな荷物を背負っている女児も見かけた。近年、王制から共和

制になり、教育の無償化をおし進め、就学率を飛躍的に伸ばしている。

しかし、国民の読み書きができる割合(識字率)は男性75.1%、女性57.4%(2011年国勢調査)。世界の国の誰もが「教育を受ける権利」が保障され、自分の能力を発揮し、活躍できる社会であってほしい。



(研修講師 川崎)



じんけんライブラリー

一押し本

「〈犯罪被害者〉が報道を変える」

著／高橋 シズエ 編／河原 理子
岩波書店 (1,800円＋税)

犯罪被害者が事件をめぐる取材や報道についてどう考えているのか。被害者と取材者が、率直に語り合った記録である。話し合いを通して取材者たちは何を感じ、いまどのような記事を書きたいと思っているのか。犯罪被害者たちの多様な想いや報道への提案、取材者の試行錯誤などを熱く語った画期的な一冊である。(事務局長 福田)



新しく購入した本を紹介します

タイトル	著者／出版社	内容
誕生日を知らない女の子 虐待—— その後の子どもたち	黒川 祥子 ／集英社	第11回開高健ノンフィクション賞受賞作。虐待を受けた子どもたちは、救出された後、虐待の後遺症に苦しんでいた。その「育ち直し」の現場であるファミリーホームに密着、子どもたちを優しく見つめる。
お母さんは命がけであなた を産みました	内田 美智子 ／青春出版社	助産師である著者が伝える、「いのち」と「性」へのメッセージ。若者やその親、親になったばかりの人など、全世代に読んでもらいたい一冊。
今を生きるしあわせ	河野 義行 ／鳳書院	松本サリン事件で犯人扱いされた著者。サリンの後遺症で意識が戻らないままの妻を14年間介護し、見送った。いま新天地・鹿児島に移り住み、新しい人生を歩み始めた60歳からの日々。
多様な「性」がわかる本 —性同一性障害・ゲイ・レズビアン—	伊藤 悟、虎井 まさ衛 ／高文研	自分の心と肉体の性別が一致しない性同一性障害の人たちおよび同性愛者（ゲイ・レズビアン）の手記、座談会などを掲載。差別から希望まで当事者がリアルに表現した、「性」を理解するための本。
避難弱者: あの日、福島原発 間近の老人ホームで何が起 きたのか?	相川 祐里奈 ／東洋経済新報社	原発から爆発音が聞こえた一放射線が飛び交う中、自らの危険を顧みず老人に寄り添った介護士たちの奮闘と葛藤を克明に描き出す感動のルポ。



事業報告

ピックアップ

平成26年度人権啓発研修ハートフルセミナー第1講座を開催しました

ハートフルセミナー第1講座「松本サリン事件～疑惑は晴れようとも～」を、河野 義行さんを講師にお迎えし、6月28日（土）に開催しました。

この日は、松本サリン事件発生日の翌日からちょうど20年目の節目の年ということもあり、多くの方にご来場いただきました。



河野さんは「人は孤立したら、つぶれてしまう。たった一人でも、自分のことを100%信用してくれる人がいたらつぶれない。たった一人でもいいから、自分のことを全面的に信じてくれる人をつくってください。」ということを講演最後のメッセージとして訴えられました。

（企画啓発課 谷脇）

ピックアップ

第41回「部落差別をなくする運動」強調旬間啓発事業を開催しました

毎年7月10日～20日は「部落差別をなくする運動」強調旬間です。

県民の皆様の同和問題に対する理解と認識を深めていただくために、本年度も7月16日（水）県民文化ホール（オレンジ）にて啓発事業を開催しました。

映画「おくりびと」の上映と、奥田 均さんを講師に迎えて「『人権の世間』をめざして」と題した講演を行いました。

講演では、部落差別についての忌避意識の正体など「忌避意識を克服するため、発想を転換して人権の世間をつくりあげていく」という強い思いをお話していただきました。

今回上映した映画「おくりびと」のDVDや奥田 均さんの多数の著書は当センターじんけんライブラリーで無料貸し出しを行っておりますので、ぜひご利用ください。



《県民文化ホール入口》



《オレンジホールロビー パネル展の様子》

【今回行われた奥田均さん講演の内容に関する参考図書】

- 『『人権の世間』をつくる』（著／奥田均・解放出版社）
- 『見なされる差別』（著／奥田均・解放出版社）

（企画啓発課 谷脇）



Information お知らせ

イベント紹介

平成26年度人権啓発研修ハートフルセミナー【第2講座】

生きることは食べること。思春期に必要な自己肯定感を育む「食」について、性と生、命の大切さなどについて考えます。
多くの方のご参加をお待ちしております。

日 時：平成26年8月23日（土） 10:00～12:00
会 場：高知県立人権啓発センター 6F ホール
講 師：内田 美智子さん
演 題：「食卓から始まる『生教育』」
参 加 費：無料（先着180名）
申込方法等：下記の問い合わせ先までご連絡ください

（企画啓発課 谷脇）



平成26年度人権啓発研修ヒューマンパワー育成講座【一般職(人権担当)研修】

「企業等の社会的責任（CSR）と人権」をテーマとし、「人を大切に行動力のある職場づくり」と題した、職場における人間関係づくりのワークショップを行います。

企業の社会的責任（CSR）が、働きやすい職場とどう関わるのかについて課題提起をしていただき、提起された課題について意見交換や協議を行います。
多くの方のご参加をお待ちしております。

日 時：平成26年9月4日（木） 13:30～16:30
会 場：高知県立人権啓発センター 6F ホール
講 師：小嶋 洋昭さん／公益財団法人東京都人権啓発センター人権問題講師
対 象：人権啓発活動の推進に取り組まれている方や人権啓発活動に興味のある方
参 加 費：無料（先着80名、1事業所複数可）
申込方法等：下記の問い合わせ先までご連絡ください

（企画啓発課 谷脇）



じんけんライブラリー 利用案内

図書、視聴覚教材の貸し出しを無料で
行っていますのでぜひご利用ください

■ 図書

1人5冊以内で、期間は2週間以内です。

■ ビデオ・DVD

1人2巻以内で、期間は2週間以内です。

※ 直接来所できない場合は送付もいたします。
（送料は利用者のご負担となります）



ホール案内

各種研修会等にご利用ください

■ 収容人員

270名（机を使用する場合は180名）

■ 設備

放送設備、スクリーン、冷暖房

■ その他

使用料、利用時間等についてはHPでご確認ください。

問い合わせ先

〒780-0870 高知市本町4丁目1番37号

公益財団法人 高知県人権啓発センター

E-mail : center@kochi-jinken.or.jp

TEL 088-821-4681 FAX 088-821-4440

HP : <http://www.kochi-jinken.or.jp>